



台湾カブトムシの被害状況と現状

東京農工大学大学院 農学研究院 ^{なか} 仲 ^い 井 ^ま だ ^か oka

はじめに

台湾カブトムシは、熱帯および亜熱帯地域に分布しココヤシやアブラヤシなどヤシ類に被害を与える。特に太平洋諸島や東南アジア地域では、農業のみならず地域住民の生活基盤（VIIを参照）にも大きな影響を及ぼしてきた。本種は大型甲虫であるが、日本のカブトムシとは生態も植生も異なる。幼虫は、倒木や堆肥などを分解して成長する一方、成虫はヤシの新芽を損傷し、葉の変形や樹木の枯死を引き起こす。このように、生活史の段階によって生態的役割が大きく異なることは、本種の特徴の一つである。ヤシ類は、樹高が高く化学合成農薬の散布が困難であることから、これまで本種の天敵微生物を用いた生物的防除が行われてきた。近年では、グアムなどで新たな遺伝子型の侵入が確認された。同時期に複数の地域に侵入が確認されたことなどから、本種は単なる害虫ではなく、外来生物問題、生態系保全、熱帯農

業、さらには本種防除に関し国際的な連携の必要性とも深くかかわる存在となっている。日本国内では、沖縄県や奄美群島を中心に分布し、特にヤシ類やビロウへの被害が問題視されている。

本稿では、台湾カブトムシの生態、日本における侵入と被害状況、繁殖生態、ヤシ類への加害、天敵微生物による防除、文化的影響などについて概説する。

I 台湾カブトムシの生態

台湾カブトムシ（サイカブトムシ）は、コウチュウ目（Coleoptera）、コガネムシ科（Scarabaeidae）、カブトムシ亜科（Dynastinae）、サイカブト属に属する大型甲虫である。英名は Coconut Rhinoceros Beetle（CRB）、学名は *Oryctes rhinoceros*（Linnaeus）である。従来は東南アジアから南アジアにかけて広く分布していたが、20世紀に南太平洋、さらに21世紀にグアム島やハワイに侵入した（図-1）。侵入の歴史については後述する。



図-1 台湾カブトムシの分布域の拡大
従来の分布域を緑色、20世紀の侵入地をオレンジ色、21世紀の侵入地を赤色で示す。
Moore博士の作成した地図をもとにしている。
提供：Aubrey Moore博士。

Current Status of Damage and Management of the Coconut Rhinoceros Beetle. By Madoka NAKAI

(キーワード：台湾カブトムシ、サイカブト、天敵ウイルス、生物的防除、ココヤシ、アブラヤシ)